人文地理学研究　XXVII　155~170　2003

# Saar-Lor-Lux国境地域における人口流動

呉　羽　正　昭

Ⅰ　はじめに
Ⅱ　Saar-Lor-Lux国境地域における越境通勤流動
　Ⅱ－1　越境通勤流動の概要
　Ⅱ－2　ロレーヌからの越境通勤流動
Ⅲ　買い物のための流動
Ⅳ　観光行動のための流動
Ⅴ　おわりに

キーワード：国境地域，通勤行動，買い物行動，観光，Saar-Lor-Lux

## Ⅰ　は　じ　め　に

本研究の目的は，Saar-Lor-Lux国境地域における国境を越えた人口流動の特徴について明らかにすることである．国境は，人々の移動をさまざまな点で制限してきた．しかしながら，国境の持つ意味は時代とともに大きく変化することも事実である．歴史的にみれば，ヨーロッパにおいて現在の国境がそのまま固定されてきた地域は少ない．また近年のEUによるヨーロッパ統一化の進行は国境の持つ意味を大きく変化させていると考えられる．こうした変化は国境地域の景観に大きくあらわれている．たとえば，国境の象徴であった検問所は廃止され不要空間となっている場合が多く，また国境地域には今日，多くの多国籍企業の立地がみられる．

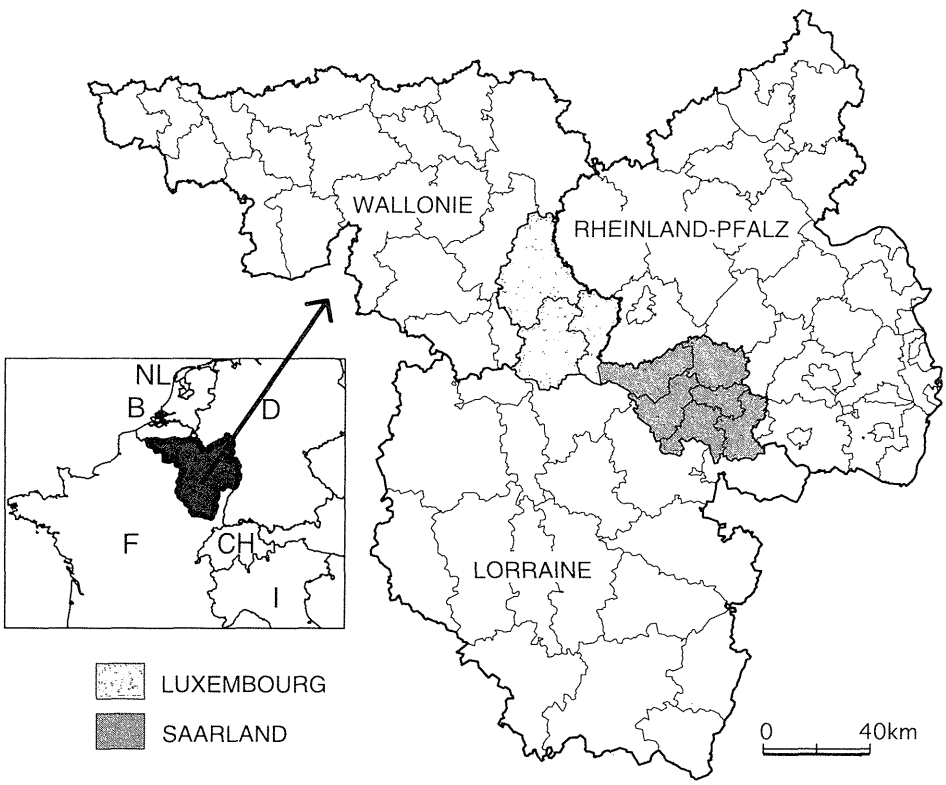
ヨーロッパにおける国境および国境地域研究の重要性については，浮田（1983）が，多くの文献を整理することによって指摘している．そのなかで国境を越えた人々の往来は，国境越え通勤者，国境越え買い物行動および観光・レクリエーションのための往来の3つに区分されることを述べた．また浮田（1985；1986）では，オーストリアとスイスとの国境に関して，またドイツの国境に関して人口流動からの分析がなされている．さらに浮田（1994）は1960年代以降のドイツ語圏における，国境研究で取り上げられてきた諸問題について，国境を挟む両側の地域の静態的相違に関する研究，国境を越えての人々の往来に関する研究，および国境を挟む両側の地域にまたがる地域計画や協力関係に関する研究に分類し，それぞれのテーマにみられる研究成果を詳細に論じた．近年，飯島（1999）は，浮田（1994）が指摘した最後のテーマについて，ヨーロッパの国境地帯における地方自治体間の連携という視点でまとめている．

ヨーロッパでは，1989年以降の東欧改革の進展とともに，従来ヨーロッパを東西に強く分断していた「鉄のカーテン」である国境が開放された．加賀美（1994）は，この視点から旧西ドイツにおける国境地域の変容を，チェコとの人口流動の視点から考察した．また呉羽（1987）は，東欧改革以後，かつての西ヨーロッパと東ヨーロッパを分けていた国境を挟んでの観光流動が著しく増大したことを

示し，その多くは日帰りでなされる買い物のための流動であると予察した．

このようにヨーロッパにおける国境および国境地域ではさまざまな変化がみられ，それに関して多くの研究蓄積がなされてきた．本研究では，国境を越えての人々の往来，すなわち人口流動を取り上げる．具体的には浮田（1983）の区分に従い通勤者の流動，買い物のための流動，観光・レクリエーションのための流動について，それぞれの特徴を明確にする．ただし浮田は，観光・レクリエーションのための流動に関して，Ruppert（1979）などに基づいて，そのための国境通過がバカンスの時期に卓越していることを強調した．しかし本研究では，国境やその周囲の地域自体が観光・レクリエーションの目的地となることもある（Timothy, 2001; Wachowiak, 1997）ととらえ，これについて分析を進める．Timothy（2001）は，国境での観光について，国境自体が観光資源となること，さらには国境地域が観光資源となる場合があることを指摘した．さらに後者に関して，いくつかの観光形態が存在することを述べている．すなわち，観光行動としては，国境を越えた買い物，不道徳な観光（賭事・風俗・飲食など）および文化的・政治的な日帰り旅行（宗教的・政治的迫害からの逃避）などをあげている．同時に観光の目的地に関連して，国境を越えた自然公園などの存在，飛び地となった領土の存在，小規模国家の存在を指摘した．

本稿では，以上のさまざまな人口流動についての分析を行い，それらを通じてSaar-Lor-Lux地域における，さらにはヨーロッパにおける国境が有する意味を考察してみたい．本研究の対象地域は，Saar-Lor-Lux国境地域（第１図）である．この地域の範囲は，かつて著名な製鉄・炭鉱地域であった




**第１図**　研究対象地域：Saar-Lor-Lux国境地域

ドイツのザールラント州Saarland，フランスのロレーヌLorraineおよびルクセンブルクLuxembourgを中心としているため，Saar-Lor-Luxという名称がついているものの，今日では，さらにドイツのラインラント・プファルツ州Rheinland-Pfalzおよびベルギーのワロニー地方Wallonieも含んでいる．地域総面積は6.5万km$^2$，人口は約1100万に達する．この地域では，1985年6月にすでにドイツ，フランス，ベネルクス3国による「シェンゲン合意」が結ばれ，国境を越える人々の移動に関する自由化が模索された．その後1990年6月には最初の「シェンゲン協定」が結ばれ，それ以降，人々の越境移動が完全に自由になっている．多くの国境には検問所が存在したが，現在その機能は全く存在しない（写真1）．もちろん，シェンゲン協定発効以前からさまざまなかたちでの地域的な連携の深化がみられ，研究者側からの研究も進んでいる．たとえば，大学の研究者レベルでは，ザールラント大学，メス大学らが協力してSaar-Lor-Lux国境地域のアトラスを完成させた（Brücher, *et al.*, 1982）．また，様々な形態で国境地域に関するシンポジウムや講座が開催されてきた（たとえばBrücher, *et al.*, 1987）．さらに，Saar-Lor-Lux地域では国境を越えたさまざまな地域連携組織が確立していること（Schulz, 1998）も大きな特徴である．

## Ⅱ　Saar-Lor-Lux国境地域における越境通勤流動

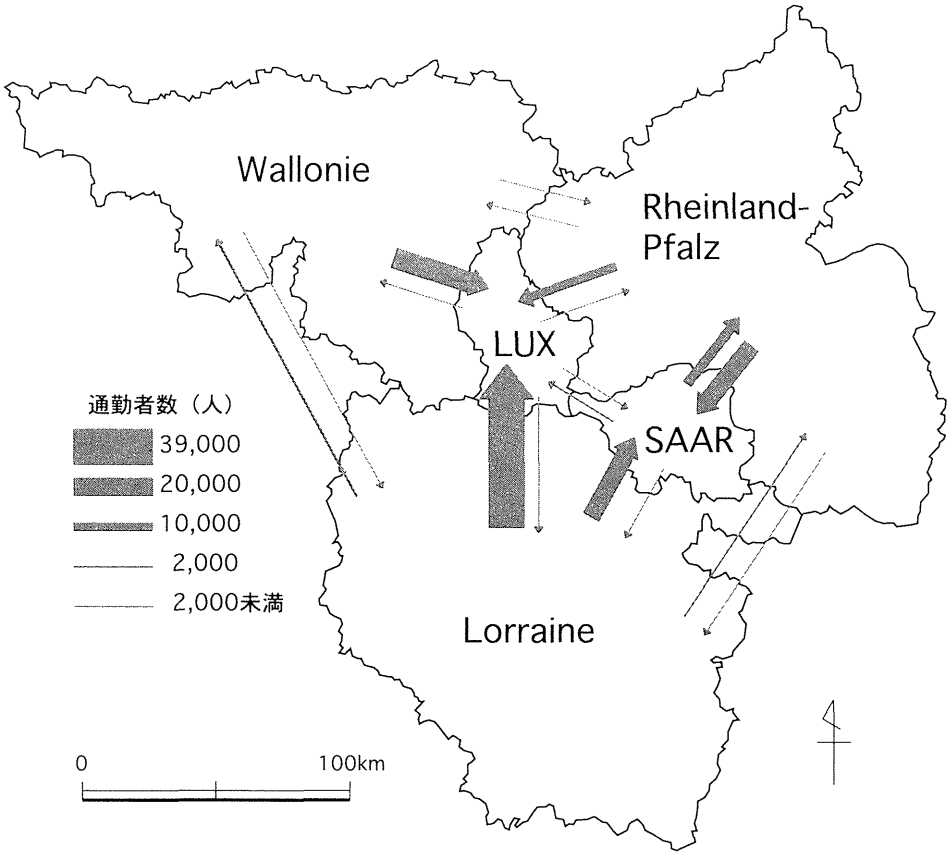
### Ⅱ－1　越境通勤流動の概要

まず，通勤流動について分析を進める．第2図と第1表は，1998年の時点でのSaar-Lor-Lux地域における越境通勤者数を方向別に示したものである．このデータは，労働地を基準として集計されたものである．越境通勤者の居住地および労働地に着目すると，ロレーヌが最大の送り出し地域となっている．毎日，6万人以上がルクセンブルクやザールラントへと越境通勤している．最大の流動はロレーヌからルクセンブルクへの通勤で，4万人弱に達している．逆に，ルクセンブルクの吸引力が最も高く，そこでの越境労働者数は7万人を超えている．また次いでザールラントも約4万人の労働者を吸引し，ロレーヌからだけでなく，ドイツ国内のラインラント・プファルツ州からの労働者も多いことが把握できる．

当該地域において，毎日，国境を越えて通勤した就業者数は，約13万4千人に達する（第1表）．Saar-Lor-Lux地域全体の就業者数が約330万であることを考慮すると，越境通勤を行う就業者の割合は4％に過ぎない．しかしながら，1996年での越境通勤者は11万4千人であったため，その数は増加傾向にある．さらに2000年では，その規模は15万人を超えている．ちなみに，フランスのアルザス地方から，ドイツのバーデン・ヴュルテンベルクBaden-Würtemberg州，スイスのバーゼル地域への越境通勤者は約7万人（2000年）であるため，国境が複数存在しているSaar-Lor-Lux国境地域における通勤流動の規模はかなり大きいことがわかる．

### Ⅱ－2　ロレーヌからの越境通勤流動

こうした越境労働者について，最大の送り出し地域であるロレーヌに注目して分析を行う．既に述べたように，ロレーヌからは1998年の時点で毎日6万人以上の労働者が国境を越えた外国で働いて




**第2図**　Saar-Lor-Lux国境地域における通勤者の流動（1998/99年）
注：原データは第1表参照
資料：Annuaire Statistique 2000: Saar Lor Lux Rheinland-Pfalz Wallonie

**第1表**　Saar-Lor-Lux国境地域における通勤者の流動（1998/99年）

単位：人

| 労働地 | 居住地 SAAR. | LOR. | LUX. | R／P. | WAL. | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ザールラント[a] | X | 20,900 | 16 | 19,682 | 38 | 40,636 |
| ロレーヌ[b] | 900 | X | 200 | 100 | 124 | 1,324 |
| ルクセンブルク[c] | 2,403 | 38,900 | X | 11,258 | 22,800 | 75,361 |
| ラインラント＝プファルツ[d] | 11,376 | 2,000 | 100 | X | 122 | 13,598 |
| ワロン[e] | 0 | 2,800 | 271 | 100 | X | 3,171 |
| 合計 | 14,679 | 64,600 | 587 | 31,140 | 23,084 | 134,090 |

資料：Annuaire Statistique 2000: Saar Lor Lux Rheinland-Pfalz Wallonie
原データ：a) Landesarbeitsamt Rheinland-Pfalz-Saarland (1998) with some estimation
b) INSEE-Estimations (March, 1999)
c) Inspection Générale de la Sécurité Sociale (September 1999)
d) Landesarbeitsamt Rheinland-Pfalz-Saarland (1998) with some estimation
e) Institut National de l'Assurance Maladie-Invalidaté (1998)

いる．第２表は，ロレーヌからの越境労働者数の推移をみたものである．これによると，1968年には７千人に過ぎなかった越境労働者数は，大きく増加してきた．とくに1990年以降の増加が著しい．1990年までは，ドイツへの越境が大半を占めていたが，それ以降ルクセンブルクへの通勤者の急激な伸びが確認できる．またルクセンブルクへの労働者数ほどではないが，ドイツへの越境流動も増加傾向にある．一方，ベルギーへの越境労働者は極端に少ない．

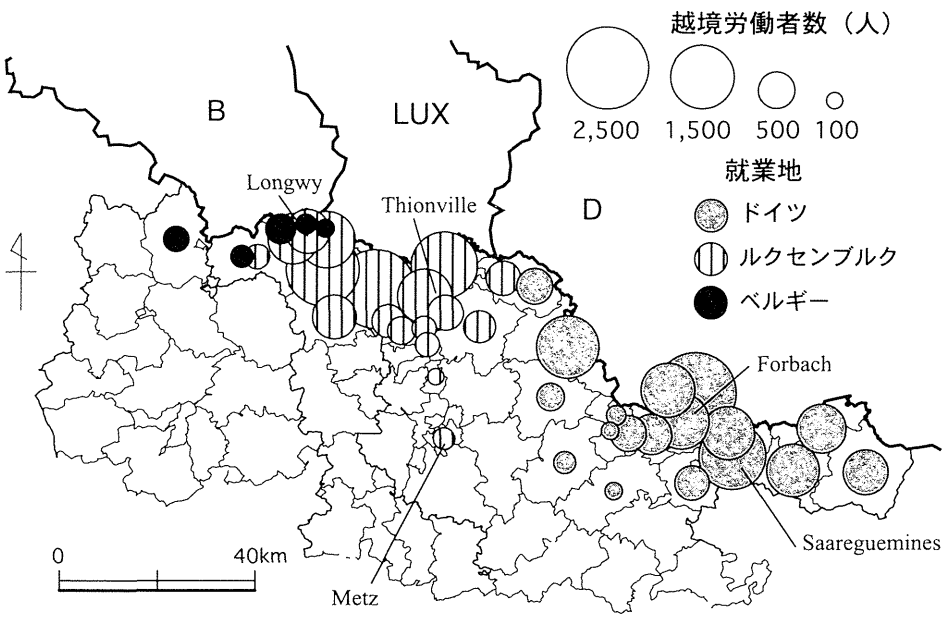
第３図はロレーヌにおける越境労働者数をカントン別，さらには行き先別に示したものである．このデータはフランスでの人口センサス（1990年）の際になされた就業地のデータに基づいている．1999年にも人口センサス調査は行われているが，その詳細な結果はまだ公表されていない．1990年のロレーヌからの越境労働者数は約3.1万人で，うち1.5万人はドイツへ，1.4万人がルクセンブルクへ，残りがベルギーへの通勤者であった（第２表）．この図によると，越境労働者はロレーヌの北部に著

**第２表**　ロレーヌからの越境労働者数の推移（1968～1999年）

単位：人

| 年 | ドイツ | ルクセンブルク | ベルギー | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 1968 | 4,600 | 2,150 | 250 | 7,000 |
| 1975 | 12,000 | 5,500 | 450 | 17,950 |
| 1982 | 12,000 | 6,100 | 500 | 18,600 |
| 1990 | 15,300 | 14,350 | 1,350 | 31,000 |
| 1993 | 17,150 | 23,150 | 1,400 | 41,700 |
| 1999 | 22,900 | 38,900 | 2,800 | 64,600 |

資料：INSEE-Lorraine: *Vivre en Lorraine et travailler à l'etranger*
INSEE-Estimations (March, 1999)



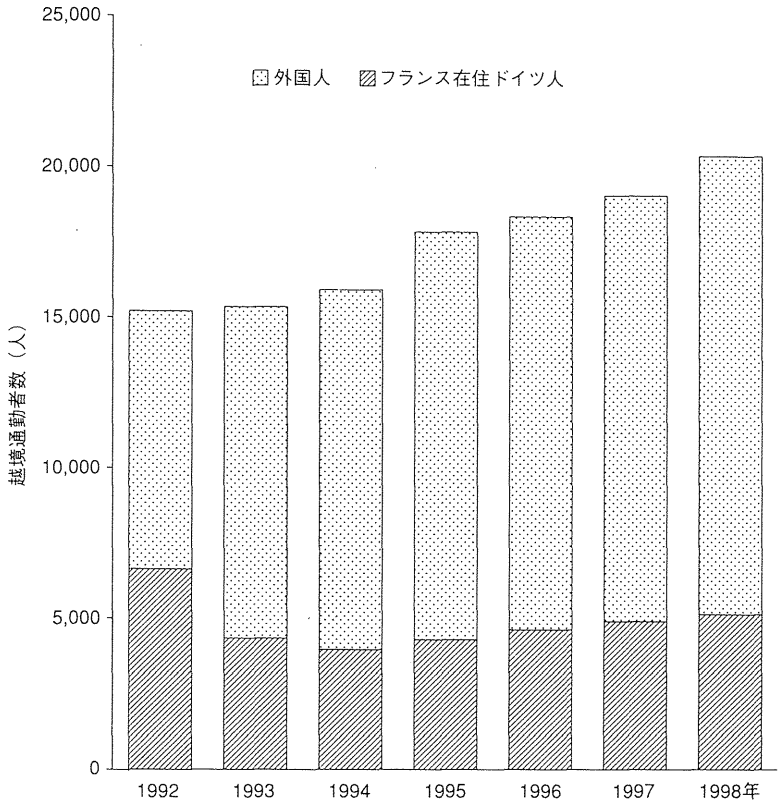

**第３図**　フランス・ロレーヌにおけるカントン別越境労働者の分布（1990年）
注：越境労働者100人以上のカントンのみ表現
資料：INSEE-Lorraine: *Vivre en Lorraine et travailler à l'etranger*

しく集中していることが明らかである．とくにドイツ，ルクセンブルクおよびベルギーとの国境により近接したカントンに集中する傾向にある．すなわち，こうした通勤流動には近接効果が非常に大きく作用していることが把握できる．さらに，それぞれのカントンからは，隣接する国への通勤流動が著しく卓越する．またドイツ，ルクセンブルクおよびベルギー，とくに前2者に隣接するカントンにおいて総就業者数の多くの部分を越境労働者が占める傾向にある．ロレーヌの北東部から，ザールグミンSaareguemines とフォルバックForbachやその周囲のカントン，ティオンヴィルThionvilleやロングウィLongwyとその周囲のカントンでは，全就業者に占める越境労働者の割合が20％を超えている．以下では，ロレーヌからルクセンブルクおよびドイツへの越境通勤流動について分析を進める．

ロレーヌからルクセンブルクへの越境通勤流動は近年発展が著しいが，1990年のフランスでの人口センサスを用いて述べる．1990年の越境労働者約1.4万人の3分の2は男性が占めている．さらに男女ともに20歳から40歳代半ばまでの年齢層が大きく卓越する．とくに女性の場合，20歳代で半分以上を占めている．ルクセンブルクでの職業に注目すると，工業，とくに建設業や製鉄関連産業に従事するものが多い．それらの職場は主としてルクセンブルク南部に集中している．ただし，ルクセンブルク市Luxembourg ville（写真2）では，金融関連サービス業や飲食・宿泊関連産業に従事するものが多い．

次に，ロレーヌとザールラントとの関係に注目して詳細にみていこう．第1表のように，ドイツ側からフランスへの通勤者は1000人にも満たないのに対して，毎日2万人程度の労働者がフランスからドイツへ通勤している．以下の分析資料は，ザールラントがまとめた外国人労働者のデータである．第4図のグラフは，フランスからザールラントに通勤する労働者数の推移をあらわしている．その数は1992年以降増加傾向にあり，1998年には2万人を超えている．また，フランスに在住するドイツ人による通勤が約4分の1を占めていることが特徴である．このように，近年，ドイツ人がロレーヌに土地を購入して居住し（写真3），ドイツへと通勤する例も増えつつある．この件数を示す詳細な数値はないものの，ロレーヌのモーゼル県で滞在許可を得たドイツ人は1985年には約6千人に過ぎなかったが，1996年には1.2万人弱へと急増している（Ramm, 1999）．これはフランス側で地価がドイツに比べて最大で50％安く，また所得税率も最大で30％低いため移住する例が多いのである（Brücher und Dörrenbächer, 2000）．一方，ドイツ人を除いた残りの4分の3は，ザールラント州の統計上は「外国人」となっている．ここでの外国人はドイツ人以外という意味で，ほとんどはフランス人であると考えられるが，そのほかにフランスに在住するトルコ人などの外国人もある程度存在する．

第3表は，こうしたフランスからザールラントへの越境労働者の就業部門をまとめたものである．就業部門では，工業が中心で47％と約半数を占め，その他のサービス業，商業と続いている．こうした工業への集中は1992年の60％と比べると，やや弱まっている．逆にその他のサービス業は，同時期17％から28％へと増大した．また労働者の国籍による差異も存在する．外国人（そのほとんどはフランス人）では工業とその他のサービス業に集中する傾向を示すのに対し，ドイツ人の場合には工業に集中するものの，比較的分散する傾向にある．ザールラント全体の部門別就業者率に注目する



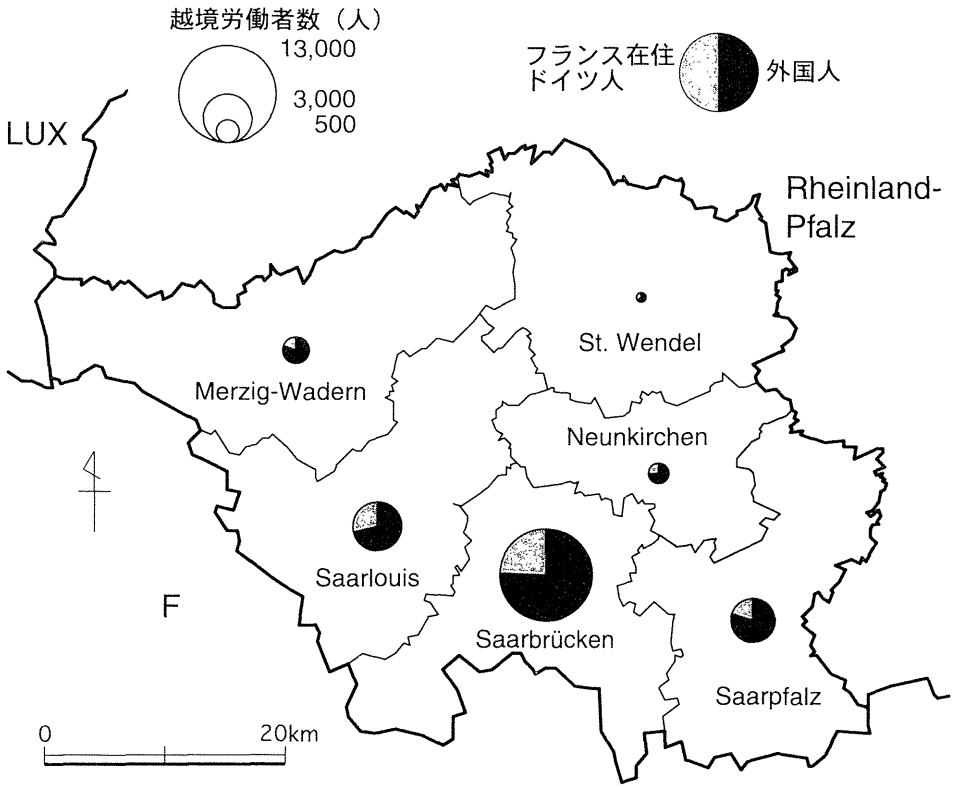

**第4図**　フランスからザールラントへの越境通勤者数の推移（1992～1998年）
資料：Statistisches Landesamt Saarland

**第3表**　フランスからザールラントへの労働部門別越境労働者数（1998年）

| 指　標 | 労働部門 | 総　数 | フランス在住ドイツ人 | 外国人 |
|---|---|---|---|---|
| 割合（%） | 農林業 | 0.3 | 0.2 | 0.3 |
| | エネルギー・鉱業 | 1.8 | 4.9 | 0.8 |
| | 工業 | 47.3 | 45.4 | 47.9 |
| | 建設業 | 6.1 | 5.8 | 6.1 |
| | 商業 | 11.1 | 14.4 | 10.0 |
| | 交通・通信 | 3.5 | 4.8 | 3.1 |
| | 金融・保険 | 0.6 | 1.6 | 0.3 |
| | その他のサービス業 | 27.9 | 19.5 | 30.8 |
| | 自営業 | 0.8 | 2.0 | 0.4 |
| | 公務・社会保険 | 0.5 | 1.5 | 0.2 |
| 合　計（人） | | 20,440 | 5,238 | 15,202 |

注：ルクセンブルクからの越境労働者16人を含む
資料：Statistisches Landesamt Saarland: *Einpendler aus Frankreich und Luxemburg ins Saarland*

と，工業の割合は約35％であるため，越境労働者がかなりの割合で工業に従事していることが把握できる．この傾向はフランス在住のドイツ人にも該当し，ザールラント在住のドイツ人に比べ，彼らがやや低所得の社会的階層から構成されると考えられる．越境労働者の就業地は，第5図のように，その中心は州都のザールブリュッケンとなっている．ザールブリュッケンでの就業者数は約1.3万人




**第5図**　ザールラントにおけるフランスからの越境労働者数（1998年）
注：ルクセンブルクからの越境労働者16人を含む
資料：Statistisches Landesamt Saarland: *Einpendler aus Frankreich und Luxemburg ins Saarland*

で，全体の63％を占めている．この数値は1992年の58％から増加を示しているが，これは，先述したような就業部門における第三次産業の重要性の増加と関連がある．すなわち，サービス業などの機能がより卓越し，また人口も集中するザールブリュッケンでの就業が増加したものと考えられる．また，ザールラントの南部はフランスと国境に接するといった近接効果も有するために，このような分布傾向を示すのであろう．

## Ⅲ　買い物のための流動

本章では，買い物による流動について述べる．国境を越えての買い物のための往来に関して，Thimothy（2001）は次のような発生要因を述べた．すなわち，換金レートの変動，課税システム，経済規模，流通システムなどにみられる差異が関連し，それによって価格や品揃えが国境をはさんで異なっていることである．同時にサービスの違いや，営業時間（休日・週末の営業状態，平日の営業時間）の差異，さらに買い物自体が楽しみであることも大きな発生要因として指摘した．

しかしながら買い物のための流動については，多くは日帰りのため，全体の流動量を数的に把握することは困難である．もちろんSaar-Lor-Lux国境地域においても，こうした品揃えや価格の差異に基

づいて，国境を越えてのさまざまな買い物行動がなされている．たとえば，ルクセンブルクとドイツの関係に注目すると，ガソリン，タバコ，チョコレート，化粧品等を求めてドイツ人がルクセンブルクを訪れる．逆にルクセンブルク人は洋服や食料品の購入のためドイツに入国する．トリーアやザールブリュッケンといった国境に近い都市は，そのための主要な訪問先である．また，ドイツとフランスでは，チーズ，海産物，果物，ワインなどの食料品購入のためドイツ人がフランスを訪れ，カメラやオーディオ機器を求めてフランス人がドイツを訪問する．たとえば，ザールブリュッケン南西部に位置するフランス国境側には，大規模なスーパーマーケットが立地している（写真４・５）．統計資料はないものの，こうした買い物のための流動は，シェンゲン協定が発効し国境通過の自由化とともに，かなり増加しているものと考えられる．

先述のように，品目の価格差は税率の差異によるところが大きい．例をあげると，フランスでは消費税率がドイツに比べて高いため，フランス人は消費税率の低いドイツで高価な買い回り品を購入する場合が多くなっている．また第４表は，ガソリンとタバコの価格についてEU諸国間で比較したものである．両品目ともに大きな差異があることが把握できる．本研究の対象地域については，２品目ともルクセンブルクでかなり安くなっている．ガソリンとタバコともに，ヨーロッパ国内で原価がこれほど大きく異なるとは考えられず，これは各国の課税システムの差異が大きく影響した結果である．ガソリンの場合は価格に占める税金の金額も示した．この金額はイギリスからギリシャまで倍以上の開きがある．

また，経済システムや流通システムは国によって異なっている．そのため品目の価格差や品揃えの差異が生じている．大部分のEU諸国では，2002年から通貨がユーロに統一された．これによって価格差が単純に比較できるようになり，国境を越えた買い物行動がますます増える傾向にあると予測できる．

**第４表**　EU諸国間における価格差の例

| 国　名 | ガソリン 1L | | タバコ 20 本 |
|---|---|---|---|
| | 単位：ユーロ | うち税金 | 単位：ポンド |
| イギリス | 1.33 | 0.97 | 3.88 |
| オランダ | 1.21 | 0.78 | 1.58 |
| スウェーデン | 1.19 | 0.78 | 2.52 |
| デンマーク | 1.17 | 0.75 | 2.60 |
| フランス | 1.13 | 0.77 | 2.00 |
| フィンランド | 1.13 | 0.76 | 2.36 |
| ベルギー | 1.11 | 0.70 | 1.71 |
| イタリア | 1.11 | 0.70 | 1.29 |
| ドイツ | 1.05 | 0.71 | 1.80 |
| オーストリア | 0.97 | 0.58 | 1.50 |
| アイルランド | 0.89 | 0.53 | 2.93 |
| ルクセンブルク | 0.89 | 0.47 | 1.26 |
| ポルトガル | 0.89 | 0.47 | 1.09 |
| スペイン | 0.84 | 0.49 | 1.03 |
| ギリシャ | 0.84 | 0.42 | 1.33 |

資料：朝日新聞2000年８月25日（2000年６月，店頭平均，欧州委員会調べ）
　　朝日新聞2000年４月23日（英国たばこ生産者協会調べ）

## Ⅳ　観光行動のための流動

一般に，観光レクリエーションのための流動には，ビジネス旅行やレクリエーション旅行がある．しかし，Saar-Lor-Lux国境地域において，その多くは日帰り形態であり，たとえば先述した買い物とセットになって行われる場合が多々あると考えられる．しかしながら日帰り旅行については資料がないため，ここでは対象地域における宿泊客について分析を行うこととする．

第6図は，Saar-Lor-Lux国境地域における宿泊数の分布を表したものである．また宿泊客の発地も示した．ただし，ベルギーは除いた．さらに，各国でのデータ集計方法が異なっているために，単純に国間の宿泊数の多寡を比較することは不可能である．たとえば，フランスではホテルの宿泊客についてのみの数値が示されており，それ以外の宿泊施設における宿泊数は算入されていない．しかしながら，宿泊数の大まかな傾向を理解することは可能であろう．全体的にみて，この地域は著名な観光資源に乏しいため，宿泊客はそれほど多くない．しかし，例外的に著名な観光地域としてあげられるのは，ラインラント・プファルツ州のモーゼル川沿いの地域である（写真6）．モーゼル河畔の日向斜面にはワイン用のブドウ畑が多く分布し，また河畔に多くのキャンプ場が立地している．

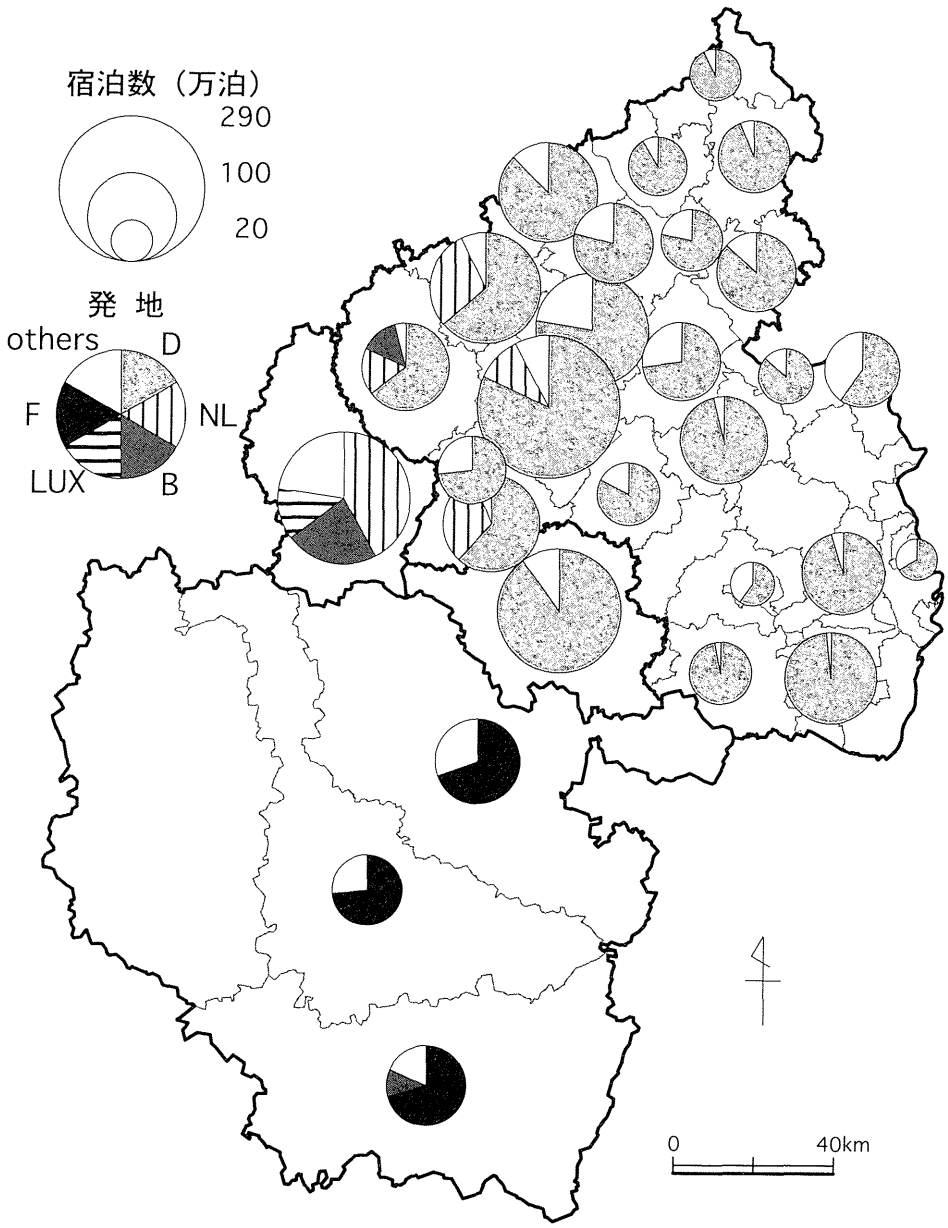
宿泊客の発地に注目すると，ドイツにおいてはドイツ人による宿泊，またフランスにおいてはフランス人による宿泊が卓越している．すなわち自国の宿泊客が多くを占めていることが特徴である．例外としてあげられるのは，ルクセンブルクとドイツのモーゼル川沿いの地域のみである．ルクセンブルクでは，オランダとベルギーからの宿泊が6割以上を占めている．一方，ドイツのモーゼル川沿いの地域では，とくにオランダからの宿泊客が目立つ傾向にある．

宿泊客数の月別変動を分析すると，全体として夏季に多い傾向にあるものの，大きな変動がみられない．例外は，モーゼル川沿いの地域のみで，夏とワインシーズンである秋に大きなピークが存在する．また滞在期間は，ザールラントにおける3.5泊が最も長く，ラインラント・プファルツおよびルクセンブルクで3泊，ロレーヌでは2泊にも満たない状況である．

このように宿泊を伴った流動に関しては，Saar-Lor-Lux国境地域において国境を越えたものはそれほど大きく目立った傾向にない．こうした結果は，第1にはビジネス客の多さを反映したものであると考えられる．これは宿泊客数の月別変動が小さい点，さらには滞在日数が極端に短い点から裏付けられる．Saar-Lor-Lux地域には多くの多国籍企業が存在するが，その結果とも考えられる．第2には，週末になされる日帰りの観光流動が卓越することも大きく反映したものであることである．また，こうした日帰りの観光行動の多くは，先述した買い物行動を付随したものであろう．

## Ⅴ　お　わ　り　に

以上のように，Saar-Lor-Lux地域ではさまざまな人口流動がみられた．通勤や買い物のための流動については，国境の自由化とともにますます増加する傾向を示している．その一方で，観光のための流動では，そのほとんどが，国内で完結する性格をおびており，国境を越えかつ本地域内での滞在を目的とする観光流動はそれほど多くみられない．宿泊客数はある程度あるものの，その多くはビジネ




**第6図**　Saar-Lor-Lux地域における発地別宿泊数の分布（2000年）

注：宿泊数の集計方法が各国で異なっているため国間の数値比較は困難
宿泊数20万以上の単位地域のみ表示
10％以上を占める発地のみ表示．それ以外はその他に含まれる
ロレーヌは1998年のデータ
単位地域は国・州ごとで異なる

資料：Luxembourg：STATEC
Rheinland-Pfalz：Statistisches Landesamt Rheinland-Pfalz
Saarland：Statistisches Landesamt Saarland
Lorraine：INSEE

ス客が占めると推察される．

最後に，通勤や買い物のための流動について，その要因を若干議論してみたい．通勤や買い物のための流動は，国境を挟んで，賃金，雇用，税率，商品の品揃え・価格などにおいて差異が存在することに大きく影響を受けている．賃金を例にとると，第５表のように国によって，非常に大きな差異がある．たとえば，ルクセンブルクの平均月給はロレーヌのそれの1.6倍である．結果として，賃金の高い国へと労働力が流動していくと考えられる．もちろん，越境労働者を生み出す地域，さらには越境労働者を受け入れる地域における経済構造の特徴も大きく作用している．

しかしながら，賃金をはじめとする諸要因によって発生する通勤や買い物のための流動は，ほかの国境地域においても一般的にみられる現象である．すなわち，EU内のほとんどの国がシェンゲン協定に加盟し，人々の移動が自由になっているためである．しかしながら，Saar-Lor-Lux国境地域においては，ほかの地域に比べてより多くの流動があると考えられる．これは，本地域が有する次のような特徴に基づいていると予測される．第１には，国境の複雑さである．すなわち狭い地域内に，ルクセンブルクとそれを取り囲む３つの国，合計４つの国が存在していることである．第２にあげられるのは歴史的背景である．ドイツとフランスに関していえば，その国境は何度も変更されてきた．この結果として，言語をはじめとする文化的に類似した性格が多くみられる．さらに，かつて本地域の主産業は製鉄産業であったが，その際，地下資源を効率的に利用する関係で国を越えた産業連関が必要不可欠であったことである．これが現在のEUの端緒になったことは周知の事実である．現在では製鉄産業は衰退傾向にあるが，こうした性格が，さらには文化的な共通性も含めて，本地域における地域連携の強さ（Schulz，1998）につながっていると考えられる．

第３にあげられるのは，ルクセンブルクの求心性の高さである．ルクセンブルクにおける１人あたりのGDPは45000米ドルで（2000年），世界最高レベルにある．その結果，既述のように平均賃金がかなり高い．さらに多くの国際機関が存在すること，工業だけでなく金融・サービス業を中心とした第三次産業に特化することといった都市機能が著しく大きい．国際機関としては，EUの諸機関の集中がみられる．すなわち，欧州裁判所，EU会計監査院，欧州議会事務局，EU投資銀行，欧州委員会の部門の一部（たとえばEU統計局など）の立地がみられる．また産業基盤に注目すると，従業員500人以上の企業はルクセンブルク国内に38あり，その従業員数の合計は５万人に達する．こうした大企業のうち半数は工業が占める．また銀行部門でも１万人弱の従業員数が存在する．

第４には，ロレーヌの特殊性である．かつてロレーヌ北部の地域を支えていた製鉄関連産業は衰退

**第５表**　Saar-Lor-Lux国境地域における賃金の差異（1998年）

| 指　　標 | Saarland | Lorraine | Luxembourg | Rheinland-Pfalz | Wallonie |
|---|---|---|---|---|---|
| 労働者の平均時間給 | 14.00 | 9.93 | 11.03 | 13.75 | 10.57 |
| 雇用者の平均月給 | 2,653 | 2,119[1)] | 3,415 | 2,776 | 2,702 |

１）1997年の数値

２）ロレーヌ，ルクセンブルクおよびワロニーは工業部門のみの数値

資料：Annuaire Statistique 2000: Saar Lor Lux Rheinland-Pfalz Wallonie

原データ：Vierteljährliche Verdiensterhebung in Industrie und Handel Enquête semestrielle harmonisée sur les gains

の一途をたどっている．その結果，地域内の雇用形態が悪化し，ルクセンブルクやドイツへの越境労働者が増加していると考えられる．また近年，ロレーヌ北部にはドイツ系企業の進出が著しいが，それはザールラントに近接する地域に集中して立地する傾向にある（Dörrenbächer and Schulz, 1999）．そのため，前述したルクセンブルクの性格ともあいまって，とくにティオンヴィルやロングウィからルクセンブルクへの越境労働者の急激な流出につながっている．

このようにSaar-Lor-Lux国境地域においては，国境は人々の移動に関して物理的な障害としての性格をほとんど有していない．逆に経済などさまざまな点でみられる格差が人口流動を高めていると考えられる．2002年1月にユーロという通貨の統一がなされ，また今後もさらなるEU統合に向けて，さまざまな分野での統一化の進行が予想される．こうしたEU統一は，Saar-Lor-Lux地域における，さらにはヨーロッパにおける国境地域をますます変化させる方向に進むものと予測される．とくに，今後税制システムの統一化がなされると，これによってSaar-Lor-Lux国境地域における人口流動にはさらなる変化が生じることは間違いないであろう．

本稿は，平成13～14年度文部省科学研究費補助金（基盤研究B）「フランス・ドイツ国境地帯における地域統合の空間動態（代表者：手塚　章；課題番号：13572036）」の成果の一部である．現地において，貴重な助言・協力をいただいたザールラント大学のW. Brücher教授とM. Helfer博士，トリーア大学のC. Becker教授，ボン大学のH. Toepfer教授，ナンシー大学のA. Hunbert教授に深く感謝いたします．なお本研究の一部は，2002年日本地理学会春季学術大会（日本大学）で発表した．最後に，本年度で筑波大学を退官される高橋伸夫教授に長年のご指導に感謝して本小論を謹呈いたします．

## 参考文献

飯島曜子（1999）：ヨーロッパにおける国境を越えた地方自治体間連携．経済地理学年報，**45**，79-99.

浮田典良（1983）：国境地域の人文地理学的研究―ドイツ語圏における近年の研究動向―．人文地理，**35**，518-534.

浮田典良（1985）：オーストリア・スイス国境がその両側の地域に与える影響．細井淳志郎先生退官記念論文集出版事業会編：『地域をめぐる自然と人間の接点』同会，55-67.

浮田典良（1986）：国境通過旅客交通の地域性―西ドイツとその隣接諸国との国境における―．水津一朗先生退官記念事業会編：『人文地理学の視圏』大明堂，453-464.

浮田典良（1994）：ドイツの国境．地理学評論，**67A**，1-13.

加賀美雅弘（1994）：国境開放による旧西ドイツ国境地域の変容―チェコとの国境地域についての研究事例にみる―．東京学芸大学紀要第3部門社会科学，**45**，55-65.

呉羽正昭（1997）：中央ヨーロッパ東部地域住民の観光パターンの変化に関する一考察．愛媛の地理，**13**，25-33.

Brücher, W. und Dörrenbächer, P. (2000): Grenzüberschreitende Beziehungen zwischen dem Saarland und Lothringen: Ausdruck einer Mischkultur. Marti, R. (Hrsg.): *Grenzkultur - Mischkultur?* Saarbrücken, 17-34 (=Veröffentlichungen der Kommission für Saarländische Landesgeschichte und Volksforschug eV, Bd. **35**).

Brücher, W., Franke, P. R. (Hrsg., 1987): *Probleme von Grenzregionen: Das Beispiel Saar-Lor-Lux-Raum*. Saarbrücken, 144S.

Brücher, W., Quasten, H., Reitel, F. (Hrsg., 1982): *Saar-Lor-Lux Atlas: Pilotstudie*. Saarbrücken, 87S.

Dörrenbächer P. and Schulz, C. (1999): Cultural and regional integration: the case of the Saar-Lor-Lux cross-border labour market. Koter, M. and Heffner, K. (ed.): *Region and regionalism 4: Multicultural regions and cities*. £ódź, 125-139.

Ramm, M. (1999): Saarländer im grenznahen Lothringen. *Geographische Rundschau*, **51**, 110-115.

Ruppert, K (1979): Funktionale Verflechtungen im

deutsch-österreichischen Grenzraum. Keller, W. (Hrsg.): *Studien zur Landeskunde Tirols und angrenzender Gebiete: Festschrift des Instituts für Landeskunde zum 60. Geburtstag von Adolf Leidlmair.* Innsbruck, 447-456 (=Innsbrucker Geographische Studien, Bd. **6**).

Schulz, C. (1998): *Interkommunale Zusammenarbeit im Saar-Lor-Lux-Raum: Staatsgrenzenüberschreitende lokale Integrationsprozesse.* Saarbrücken, 178S. (=Saarbrücker Geographische Arbeiten, Bd. **45**).

Timothy, D. J. (2001): *Tourism and political boundaries.* Routledge, London, 219p.

Wachowiak, H. (1997): *Tourismus und Grezraum.* Geographische Gesellschaft Trier, Trier, 262S. (=Materialien zur Fremdenverkehrsgeographie, H. **38**).

# Grenzüberschreitender Personenverkehr im Saar-Lor-Lux-Raum

Masaaki KUREHA

Dieser Artikel beschäftigt sich mit der Frage, welche Situation grenzüberschreitender Personenverkehr in Europa zeigt. Diese Problemstellung wird anhand des Beispiels vom Saar-Lor-Lux Raum durch den Grenzgängerverkehr, den Personenverkehr zum Einkaufen und den Tourismusverkehr analysiert. Damit werden Bedeutungen der Staatsgrenze und des Staatsgrenzgebiets nicht nur im Saar-Lor-Lux Raum diskutiert, sondern auch in Europa. Die Grenzgängerverflechtungen dieses Gebiets erreichen die höhste Intensität in Europa. Etwa 134000 Tagespendler überschreiten hier die Grenzen, um in einem der Anrainerstaaten einer Arbeit nachzugehen. Allerdings sind die Pendlerströme einseitig gerichtet, nämlich aus dem Lothringen nach Luxembourg und ins Saarland. Zum Einkaufen überschreitet man sehr oft die Staatsgrenzen aufgrund der Unterschiede des Preisniveaus und der Warenqualität oder Wareneinrichtungen. Der grenzüberschreitende Verkehr für den Tourismus spielt aber keine große Rolle in diesem Raum wegen des Mangels bedeutender Attraktionen für Touristen. Solchen Grenzüberschreitenden Personenverkehr kann man nicht nur im Saar-Lor-Lux Raum beobachten, sondern auch in vielen Staatsgrenzgebieten in Europa. Trotzdem hat das Gebiet eine typische Form des grenzüberschreitenden Personenverkehrs. Diese Tatsache geht einerseits von der Kompliziertheit der Staatsgrenze mit der traditionellen grenzüberschreitenden regionalen Kooperation aufgrund des historischen Hintergrundes in diesem Raum aus. Andererseits spielt die Zentralität der Stadt Luxembourg als ein großes multifunktionelles Zentrum eine wesentliche Rolle.

Key words: border region, commuting behavior, shopping activity, tourism, Saar-Lor-Lux.

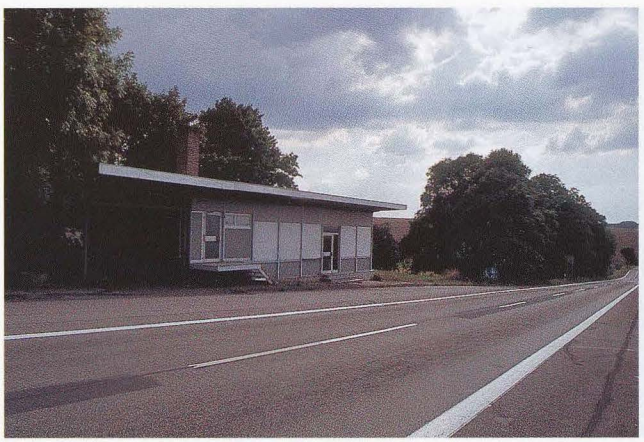


**写真 1**　ドイツ・フランス国境の検問所跡
　ザールブリュッケンの北西にある町Saarlouisの西．検問所は現在全く利用されていない．
（2001年7月撮影）

**写真 2**　ルクセンブルク中心部南部の景観
　自然の河谷を利用してつくられてきた要塞都市．多くの国際機関が存在する．
（2001年7月撮影）

**写真 3**　ロレーヌのSpicherenにおけるドイツ人住宅
　多くのドイツ人が地価の安いフランスに土地を購入し，住宅を建設している．彼らは毎日ドイツへ通勤している．ザールブリュッケン市中心部までは直線距離で5 km程度である．
（2001年7月撮影）

**写真 4**　ロレーヌ・フォルバックのスーパーマーケット（1）

ドイツとの国境に接するフランスのフォルバックに立地する．ドイツ側のザールブリュッケン中心部から 5 km 程しか離れていない．食料品などの購入のため多くのドイツ人が訪れる．

（2001 年 7 月撮影）

**写真 5**　ロレーヌ・フォルバックのスーパーマーケット（2）

写真 4 のスーパーマーケットの入口．看板は全てフランス語で書かれている．また公衆電話は，フランス・ドイツ両国のものが設置されている．

（2001 年 7 月撮影）

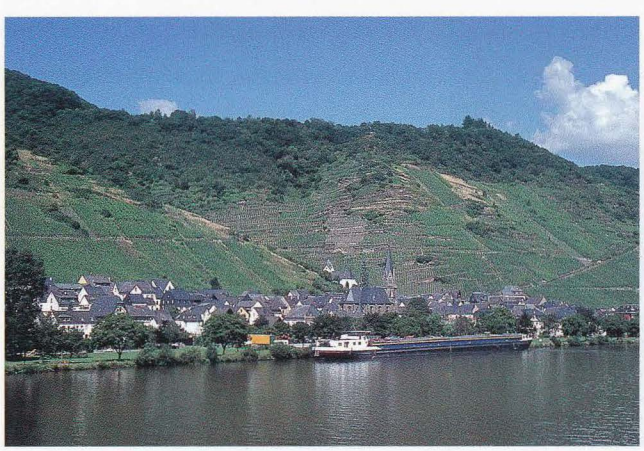


**写真 6**　モーゼル河畔の景観

日向斜面にはワイン向けブドウの栽培が卓越する．河川にはボートやヨットが並び，河畔には多くのキャンプ場が分布する．

（2001 年 7 月撮影）